



////////////////////////////////////

日本植物分類学会 ニュースレター

////////////////////////////////////

No. 65

May 2017

今号のトピックス

本年度の野外研修会は 9/15 ~ 9/17 に三重県菅島にて行われます。
申込方法は 17 ページをご覧ください。

目 次

諸報告

2017 年度日本植物分類学会第 16 回大会（京都）の報告	2
2017 年度大会発表賞の報告	4
2017 年度大会発表賞受賞者喜びの声	5
2017 年度第 1 回評議員会議事抄録	6
臨時評議員会議事抄録	8
2017 年度総会議事抄録	9
2017 年度事業計画および予算	11
会費の値上げに関する報告とお願い	14
日本植物分類学会の英文誌『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』 のカラーチャージについて	14
ABS 問題対応委員会からの報告	15
植物地理・分類学会からの申し入れ	15
庶務報告（2017 年 2 月～5 月）	16

お知らせ

2017 年度日本植物分類学会野外研修会のお知らせ	17
2018 年度日本植物分類学会第 17 回大会（金沢）のお知らせ	18
2016 年に到着した交換図書一覧	18
会員消息	20

諸報告

2017年度日本植物分類学会第16回大会（京都）の報告

第16回大会会長 田村 実
第16回大会事務局長 布施 静香

日本植物分類学会第16回大会が2017年3月9日（木）から12日（日）に京都で開催されました（写真1）。3月9日から11日までの参加者総数は305人で、内訳は一般195人（うち当日31人）、院生以上の学生69人（うち当日6人）、学部学生41人（うち当日2人）でした。口頭発表58件（発表中止1件）、ポスター発表82件（発表中止1件）の研究発表が行われました。大会発表賞へのエントリー数は口頭発表28件、ポスター発表42件でした。3月11日の夜に開かれた懇親会の参加者は190人（一般125人、学生65人）でした。参加者総数が初めて300人を超え、確認できる範囲では、学生参加者数、口頭発表数、ポスター発表数、大会発表賞へのエントリー総数、懇親会参加者数のいずれも過去最多となりました。



写真1. 本会場（京都大学北部構内）の入口

今大会では、公開シンポジウムのほか学会賞受賞記念講演も一般に公開されました。3月12日の午前に開催された学会賞受賞記念講演は、5名の受賞者に講演をしていただき、参加者は142人でした。同日午後には開催された公開シンポジウムは、「春が来た！野山の草のサイエンス」というタイトルで3名の演者に講演をしていただき、参加者は122人でした。大会終了後のオプションとして企画された京都大学植物標本庫（KYO）見学ツアーは、京都大学植物標本庫の歴史等の解説の後、京都大学総合博物館の収蔵庫が案内され、参加者は34人でした。

【収支】第16回大会の収支決算報告の概要を以下に示します。近年、大会参加者数が増加傾向にあること、京都は比較的アクセスしやすい場所にあることなどにより、当初から今大会の参加者数は多くなるだろうと予想していましたが、具体的な人数の予測については困難でした。さらに、大会参加費や懇親会費を設定しなければならない時期に会場費が確定していなかったため、会計を担当された東浩司先生は予算立てに苦労されました。学会財政が厳しい折、できるだけ学会からの大会補助金（10万円）を使わずにいたいと考えました。また、多くの学部学生に植物分類学の魅力を伝えたいと思い、学部学生

第16回大会収支決算報告概要

収入		支出	
参加費	898,000	会場費	233,796
懇親会費	1,094,600	印刷費	206,626
弁当代	52,000	文具費	61,745
要旨集販売（大会当日）	1,000	茶菓費	79,193
京都市コンベンション助成	50,000	通信費	1,914
雑収入	482	交通費	11,070
		懇親会費	1,048,850
		弁当代	57,888
		謝金	395,000
繰り越し	197,729	繰り越し	197,729
総計	2,293,811		2,293,811

の大会参加費を無料にしました。このようなことを考慮した上、大会参加費や懇親会費を設定させていただきました。結果的に、会場の一部は無償で使用でき、また京都市からは5万円を助成していただけただため、学会からの大会補助金に加え、前回大会からの繰越金も使用せずに大会を運営することができました。

【組織】今大会は、京都大学の瀬戸口浩彰研究室（人間・環境学研究科）で公開講演会を、井鷲裕司研究室（農学研究科）で懇親会を担当していただき、田村実研究室（理学研究科）で大会事務局を担当しました。加えて、永益英敏先生（総合博物館）には標本庫見学会と懇親会のお酒を、阪口翔太先生（人間・環境学研究科）にはホームページを担当していただきました。

【会場】当初、口頭発表会場とポスター発表会場を近くに設置したいと考えていましたが、大学構内で実現するためには会場費が相当高額になることが分かり、断念せざるを得ませんでした。両発表会場がやや離れていたことで、皆様にはご不便をおかけしたことと思います。口頭発表会場（写真2）には定員312人の理学研究科大講義室を利用しましたが、事前申込者が250人を超えたため、副会場を設置することに決めました。この副会場は、大講義室のデジタルプロジェクターと同じ映像・同じ音声が行き渡るので、大講義室が混雑した場合に備えて準備しました。副会場からの質疑応答は混乱を避けるために実施しませんが、映像や音声の感度が良好だったこともあり、時間帯によってはかなり多くの方々にご利用いただきました。ポスター会場（写真3）は理学研究科セミナーハウスを利用しました。ここは他の研究集会などでしばしばポスター会場として利用されている場所ですが、80件を超えるポスターを設置した記録はなく、案の定、大変な混雑となってしまいました。口頭発表時間との兼ね合いでポスター発表に専念できる時間が3時間程度しかとれなかったことも混雑の原因だったと思います。公開講演会会場（写真4）の京都学・歴史館は、建設中の段階から瀬戸口先生によって京都府と打合せが重ねられました。お陰でオープンしたばかりの快適な空間を利用することができました。当日は天候に恵まれたこともあり、お昼休みを利用して隣接する京都府立植物園へ足を運ばれた方も多くいらっしゃったように思います。



写真2. 口頭発表会場の様子

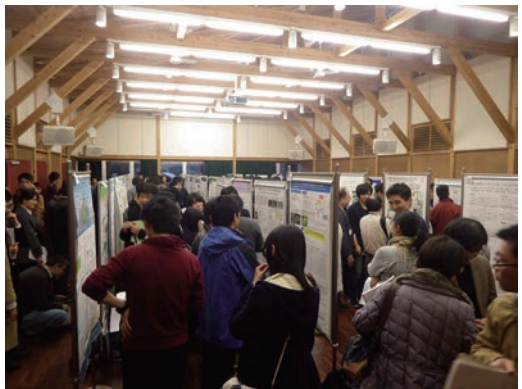


写真3. ポスター会場の様子

【研究発表】当学会の大会の魅力は、全ての口頭発表が聴けるよう口頭発表会場が1つになっている事だと思います。そこで、どれだけ口頭発表の数が増えても、発表会場は分けないことにしました。そのため、1人あたりの講演時間を10分、質疑応答2分の計12分とし、約5題ごとに休憩時間を設けて時間調整を行うことにしました。研究発表初日は口頭発表の後にポスター発表があり、2日目は口頭発表の後に会場移動を伴う懇親会があったため、遅れられないタイトなスケジュールでした。しかし、座長の適切な進行管理と、発表者と大会参加者のご協力のお陰で、プ



写真4. 公開講演会会場の建物

プログラム通りの進行を実現することが出来ました。心より感謝しています。今大会のプログラムは、口頭発表・ポスター発表とも概ね APG 分類体系の順に配列しました。口頭発表については大会発表賞へのエントリーを研究発表初日に、それ以外を 2 日目にしましたが、ポスター発表については、大会発表賞へのエントリーとそれ以外を分けずに並べました。これは大会参加者の利便性を考慮してのことだったのですが、大会発表賞選考委員の皆様にはご苦勞をおかけすることになってしまいました。

【懇親会】懇親会は大学構内で十分な広さを確保することができなかったこともあり、井鷲先生のアレンジで京都駅にほど近いメルパルク京都で開催されました（写真5）。会場内では熊本大学の副島顕子先生のご尽力により京都のいろいろなお酒が準備され、楽しむことができました。懇親会は、井鷲先生の司会でわれ、まず、田村大会会長、伊藤元己学会会長の挨拶の後、京都大学大学院理学研究科生物科学専攻長の沼田英治先生から来賓としてお言葉を頂戴しました。その後、副島先生からお酒の説明があり、角野康郎前学会会長の乾杯で幕が開きました。席上、大会発表賞の発表が行われました。その後、植田邦彦次回大会会長の挨拶があり、最後に、永益先生が閉会の挨拶をされました。



写真5. 懇親会の様子

【課題】喜ばしいことに研究発表数は近年増加傾向にあります。口頭発表数が今大会よりも多くなる場合は、大会日程を一日増やす検討が必要かもしれません。また、ポスター発表については、広い会場の確保が重要だと思います。今大会では託児室の設置を検討しましたが、設置金額が高く、利用希望者に現実的な金額を提示できませんでした。当学会のような比較的小規模な学会の大会における託児室設置については課題が多いと感じました。代わりに、本大会の新しい試みとして、オムツ交換と授乳のためのスペース（小部屋）を設置しました。こちらは無料で利用していただけ、実際に複数のご家族にご利用いただけました。

今大会は盛況のうちに無事会期を終えることができました。ご参加いただいた皆様には厚く御礼申し上げます。京都大学大学院理学研究科植物学教室には本大会に共催していただき、理学研究科セミナーハウスをポスター会場として使用することに関してお世話になりました。公開講演会については、京都府立植物園に共催、京都府立大学に後援いただき、京都学・歴史館を公開講演会会場として使用することに関してお世話になった上、大会参加者の京都府立植物園への入園と温室の観覧を無料にいただきました。公益財団法人京都文化交流コンベンションビューローには、京都市からのコンベンション開催支援助成についてお世話になりました。その他、運営にご協力いただいた全ての方々に御礼を申し上げます。

2017 年度大会発表賞の報告

大会発表賞選考委員長 海老原 淳

2017 年度大会発表賞にエントリーされた合計 70 題の発表（口頭発表 28 題、ポスター発表 42 題）について、16 名の選考委員が「研究内容」と「プレゼンのうまさ」を採点し、集計結果を踏まえた合議から口頭・ポスター各 2 題が発表賞に選ばれました。今回は、植物分類学会史上最大と思われる多数のエントリーがありましたので、ポスターについて



大会発表賞受賞者の表彰式（撮影：村上哲明）

は発表番号奇数を採点する選考委員と偶数を採点する選考委員の2グループに分かれることにより、選考委員1人あたりの採点数を絞るといった対応をとらざるを得ませんでした。ここ数年の例に漏れず、内容・プレゼンのうまさとも高レベルな発表の連続で、採点時には選考委員は非常に難しい判断を迫られました。発表賞に選ばれた4題は、分類群・アプローチは様々ではありますが、一際光るものが複数の選考委員の目に留まった発表であったと言えるでしょう。

口頭発表部門（大会プログラム掲載順）

松崎 令（国環研）「彩雪を構成する氷雪性緑藻類のシストの分子系統と1未記載種」

伊東 拓朗（東農工・連農）「亜熱帯性海岸植物ハママンネングサは複数分類群を内包する一男女群島および宮古島から発見された2新種一」

ポスター発表部門（大会プログラム掲載順）

小林 弘佳（日本女子大・理）「接合藻ヒメミカヅキモの性フェロモンによる生殖隔離と生殖干渉」

藤原 泰央（千葉大・院・理）「日本産ノキシノブ四倍体(ウラボシ科)における複数起起源とその遺伝的構造」

2017年度大会発表賞受賞者喜びの声

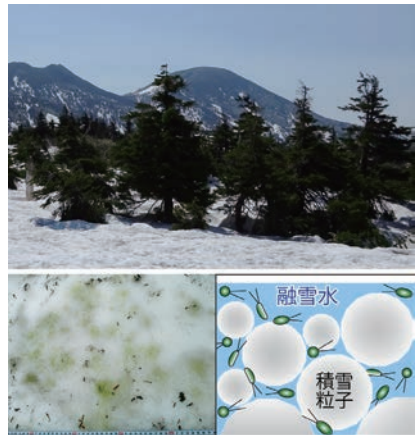
ニュースレター幹事 堤 千絵

発表賞受賞者のみなさま、おめでとうございます。受賞者のみなさまの喜びの声をお届けいたします。

松崎 令さん

国立環境研究所の松崎令です。このような賞をいただいたのは初めてだったので、非常に嬉しいです。また、共同研究でお世話になっている皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

私は寒冷適応して残雪中に生息する微細藻類、特に緑藻クロロモナス (*Chloromonas*) の種レベルの分類学的研究を行っています。それらの藻類は融雪期に残雪中でブルームを形成し、残雪が緑や赤などに色付いたように見える“彩雪”現象を引き起こします。紀元前のアリストテレスの時代から知られるこの現象は、近年、極域や山岳地域の残雪の融解を促進する要因として、生態学的にも注目されています。しかしながら、彩雪の原因となる藻類の培養株や分子データに基づく分類学的研究は限られており、生活環などの実体はほとんどわかっておりません。今回の受賞を励みに、今後も氷雪性緑藻類の正確な種の実体、および多様性の解明を進めていきたいと思っております。



図(上) 彩雪が出現する針葉樹林(青森県八甲田山)。2016年5月18日撮影。
 (下) 彩雪(緑雪)、および積雪粒子間の融雪水に生息するクロロモナスの模式図。

伊東 拓朗さん

口頭発表賞をいただきました、伊東拓朗と申します。所属は東京農工大学大学院ですが、連携大学院生として国立科学博物館植物研究部にて研究を進めています。私は多肉植物の1つであるマンネングサ属(ベンケイソウ科)を主な研究対象とし、適応進化・種多様化メカニズムに着目して研究を進めています。本発表では形態比較及び分子系統解析によって、九州南部～フィリピンまで広域に分布する海岸性植物ハママンネングサが、実際には複数の新分類群(ミヤコジマンネングサ・ダンジョマンネングサ)を含んでいることを明らかにしました。応用的な研究が盛んになってきている中で、基本的な分類学的研究が

評価されたことは純粋に嬉しく思いますし、改めて重要な仕事であることを再認識しました。また、本研究の肝である網羅的サンプリングは、本当に多くの方々のお力添えがあって可能となったものです。特に男女群島産サンプル（のちに新種ダンジヨマンネングサ）は長崎県亜熱帯植物園でなんと約30年もの間系統維持されていたものを分譲していただきました。地道に続けてこられた活動を、この重要な発見に結びつけられたことを感慨深く思っています。本研究に関わった皆様の代表として、この荣誉ある賞を有難く頂戴したいと思います。



小林 弘佳さん

ポスター賞をいただきました日本女子大学の小林弘佳です。このような賞をいただき、大変光栄に思っています。私は、ヒメミカツキモの種分化に興味を持ち研究を行っています。ヒメミカツキモは陸上植物に最も近縁な藻類の一種で、有性生殖を行います。本種には、形態に差はないものの、互いに生殖することができない集団（交配群）が複数存在しています。私は性フェロモンの活性に着目し、交配群間の生殖隔離障壁の解析を行っています。今回の発表では、近縁な二つの交配群が同所に存在した場合に、一方の有性生殖反応の割合が低下すること、その原因が交配群間の性フェロモンの交差活性の低下にある可能性があることをご報告させていただきました。この研究を行うにあたり、ご指導いただいた先生方、ご協力や助言をしてくださった皆様に心から感謝いたします。この賞を励みに今後も精進して参りますので、どうぞよろしくお願い致します。



ミカツキモのなかま。右上の小型なものが、研究材料のヒメミカツキモ

藤原 泰央さん

ポスター発表賞をいただきました、千葉大学の藤原泰央です。今回の受賞は思ってもいないことで、非常に嬉しく思っています。私はシダ植物を対象とした、倍数体種分化の機構とそのプロセスについて研究をしています。今回の発表は、ノキシノブ2倍体とナガオノキシノブの異質4倍体において、複数核遺伝子を用いて集団解析及び系統解析を行なった結果、4倍体は東日本と西日本で明確な遺伝的構造があること、両者の系列の間には部分的な生殖隔離が発達していること、さらにこれらは互いに独立の倍数体形成により生じていることを報告いたしました。シダ植物の種分化機構にはまだまだ未解明な部分があると思います。今回の受賞を励みに、今後とも興味深い研究成果を報告できるように日々頑張っていきたいと思っております。



2017 年度第1回評議員会議事抄録

庶務幹事 田中 伸幸

会場：京都大学理学研究科 2 号館 1 階 113 室（京都市左京区北白川追分町）

日時：2017 年 3 月 9 日（木）16 時～19 時

参加者

評議員：総数 12 名

出席 [12 名]：海老原 淳，岡崎 純子，黒沢 高秀，志賀 隆，副島 顕子，土金 勇樹，坪田 博美，
西田 佐知子，藤井 伸二，布施 静香，村上 哲明，米倉 浩司

委任状出席 [0 名]：委任状なし

幹事会・委員会委員長：（）内は役職

出席 [18 名]：伊藤 元己（会長，植物データベース専門委員会委員長），田中 伸幸（庶務），池田 啓
（会計），高野 温子（図書），堤 千絵（ニュースレター），矢野 興一（ホームページ），田村 実（編集
委員長・英文誌編集），東 浩司（和文誌編集），黒沢 高秀（植物分類学関連学会連絡会・日本分類
学会連合），朝川 毅守（自然史学会連合），布施 静香（講演会），藤井 伸二（絶滅危惧植物専門第
一委員会委員長），樋口 正信（絶滅危惧植物専門第二委員会委員長），永益 英敏（命名規約邦訳委
員会委員長），角野 康郎（植物分類学の将来の発展と普及に関する委員会委員長），村上 哲明（ABS
問題対応委員会委員長），池田 博（国際シンポジウム準備委員会）

欠席 [3 名]：秋山 弘之（学会賞選考委員長），奥山 雄大（学術会議若手アカデミー担当），西野 貴子（野
外研修会担当）

1. 評議員会開催にあたり，伊藤元己会長から挨拶があった。
2. 庶務幹事により定足数が確認された。会長，評議員 12 名全員出席，委任状出席はなく，評議員会は成立した。
3. 評議員会議長として海老原淳氏が，議事録署名人として藤井伸二氏，志賀隆氏の 2 名が選出された。
4. 報告事項
 - 4.1. 自然史学会連合関連報告 2016 年度活動報告および 2017 年度活動計画。
 - 4.2. 日本分類学会連合報告 2016 年度活動報告および 2017 年度活動計画。
 - 4.3. 植物分類学関連学会連絡会報告 特に活動報告なし。
 - 4.4. 学術会議若手アカデミー報告 特に活動報告なし。
 - 4.5. 各種委員会に関する報告
 - (1) 編集委員会 英文誌『APG』および和文誌『分類』の昨年度編集状況および 2017 年度計画。
 - (2) 学会賞選考委員会 日本植物分類学会賞の選考経過。（庶務より代理説明）
 - (3) 論文賞選考委員会 日本植物分類学会論文賞の選考経過。
 - (4) 植物データベース専門委員会 特に活動報告なし。
 - (5) 絶滅危惧植物専門第一委員会 現状説明と活動報告。
 - (6) 絶滅危惧植物専門第二委員会 現状説明と活動報告。
 - (7) ABS 問題対応委員会 指針案について説明と活動報告。
 - (8) 国際シンポジウム準備委員会 2016 年度活動報告。
 - (9) 植物分類学の将来の発展と普及に関する委員会 現状説明と活動報告。
 - 4.6. 図書関連報告 寄贈雑誌・交換状況の説明。
 - 4.7. 日本植物分類学会講演会報告 2016 年度実施報告。
 - 4.8. ニュースレターに関する報告 2016 年度実施報告および，2017 年度準備状況。
 - 4.9. ホームページ・メーリングリスト関連報告 学会公式 HP および ML の運用状況。
 - 4.10. 会務報告 2016 年度の事業報告。
 - 4.11. 会計報告 2016 年度の会員状況，会費滞納者の状況の説明。
 - 4.12. その他
 - (1) 野外研修会について 2016 年実施報告および，2017 年度準備状況（庶務より代理説明）。
 - (2) 植物地理・分類学会の合流について（追加資料として報告）
 伊藤会長より植物地理・分類学会から会員および事務局維持が困難なため，日本植物分類学会に合

流したい旨の申し入れがあったことが報告された。

5. 審議事項

5.1. 2016 年度事業報告（案）について

田中庶務幹事より 2016 年度事業報告（案）が提案され、質疑の後、一部修正の後、承認された。

5.2. 2016 年度決算報告（案）について

池田会計幹事より 2016 年度決算報告（案）が提案され、質疑の後、承認された。

5.3. 2017 年度事業計画（案）について

田中庶務幹事より 2017 年度事業計画（案）が提案され、質疑の後、一部修正の後、承認された。

5.4. 2017 年度予算（案）について

池田会計幹事から 2017 年度予算（案）が提案され、質疑後、一部修正の後、承認された。

5.5. 年会費の値上げ（細則変更）（案）について

伊藤会長より会計収支の現状について説明があり、年会費値上げの提案がなされ、質疑の結果、承認された。

5.6. 会則改定および特別会計に関する細則の設定（案）について

伊藤会長より会則改定および特別会計に関する細則の設定（案）の提案がなされ、審議の結果、一部修正の後、承認された。

5.7. 次期監事の推薦について

伊藤会長より役員等の選出についての細則第 6 条に基づき、次期監事 2 名について推薦があり、特に異議なく承認された。

5.8. 名誉会員の推薦について

伊藤会長より名誉会員の条件を満たす 1 名の候補があったが、審議の結果、会費の納付確認ができていないことから今回の総会での推薦を見送った。

5.9. 除名について

伊藤会長より会費未納の 15 名の除名候補の提案がなされた。審議の結果、連絡がつく可能性のある 4 名を除き、11 名の除名が承認された。

以下の審議事項（5.10 および 5.11）は、評議委員会に先立って行われた植物地理・分類学会との打ち合わせを受けて、追加資料として提案された。

5.10 和文誌『分類』の名称変更（案）について

伊藤会長より植物地理・分類学会の合流があった場合、『植物地理・分類研究』と和文誌『分類』と統合して、2018 年度より雑誌名を『植物地理・分類研究』とする案が提案され、質疑の後、承認された。

5.11 植物地理・分類学会からの移行会員の会費減免（案）について

伊藤会長より植物地理・分類学会の合流があった場合、会計年度の違いの考慮および会員の移行を促すため、移行会員については初年度のみ 5,000 円に減免する案が提案され、質疑の後、承認された。

6. その他

6.1. 第 17 回大会開催地について

伊藤会長より説明があり、第 17 回大会は、2018 年 3 月 7 日（水）～ 10 日（土）に植田邦彦氏（金沢大学）のお世話により金沢歌劇座 / 大集会室・第 9・10 会議室にて開催することが承認された。

6.2. 総会議事について

田中庶務幹事より説明があり、質疑の後、承認された。

臨時評議員会議事抄録

庶務幹事 田中 伸幸

会場：京都大学理学研究科 2 号館 1 階 113 室（京都市左京区北白川追分町）

日時：2017 年 3 月 10 日（木）19 時～20 時

評議員：総数 12 名

出席 [11 名]：海老原 淳，岡崎 純子，黒沢 高秀，志賀 隆，副島 顕子，土金 勇樹，坪田 博美，西田 佐知子，布施 静香，村上 哲明，米倉 浩司

委任状出席 [0 名]：委任状なし

欠席 [1 名]：藤井 伸二

1. 庶務幹事により定足数が確認された。会長，評議員 11 名出席，委任状出席はなく，臨時評議員会は成立した。

2. 審議事項

2.1. 植物地理・分類学会の合流に伴う議案の取扱いについて

伊藤会長より説明があり，追加審議事項として提案した和文誌『分類』の名称変更（案）および移行会員の減免措置（案）については，植物地理・分類学会の解散の承認がまだされていないことから時期尚早であるという判断により，第 1 回総会の審議事項としては提案せず，学会間での協議を重ね，会員へも周知を図った上で，改めて次回の総会時に提案することで承認された。

2017 年度総会議事抄録

庶務幹事 田中 伸幸

会場：京都大学理学研究科 6 号館（京都市左京区北白川追分町）

日時：2017 年 3 月 11 日（土）12:55～14:10

1. 総会に先立ち伊藤元己会長から挨拶があった。
2. 田村実大会会長より挨拶があった。
3. 逝去された学会員への黙祷が捧げられた。
4. 庶務幹事より総会出席者が 75 名（後 111 名）であることを報告した。
5. 永益英敏氏が総会議長に選出された。

6. 報告事項

6.1. 会務報告

庶務幹事より，報告内容は第一号議案と同じであるので議案審議の際に報告するとの説明があった。

6.2. 会員数について

池田会計幹事より，会員数の説明がなされた。

6.3. 各委員会からの報告

委員会のうち，編集委員会および ABS 対応委員会委員長より以下の通り説明がなされた。

・編集委員会

田村編集委員長から編集状況の説明があった。定期刊行と impact factor の付与を重点課題としている。財政の問題から以前のようにカラーチャージを頁当たり 18,000 円お願いすることとした。ご理解の上，以前と変わらぬ投稿をお願いしたい。また，impact factor 付与については，海老原氏（国立科学博物館）に加えて仲田氏（慶応大学），西田氏（名古屋大学）の 3 名体制で取り組んでいく。

・ABS 問題対応委員会

村上委員長から，委員会の活動状況と ABS 問題について説明があった。ABS に対する国内措置が以前お知らせした案の通り，国会で承認されて施行される。罰則のあるようなものではなく，監視機関としての環境省への報告も概要を報告するだけと簡易なものになっている。自主的に遵守する必要がある。そのためにも外国の機関と調査研究協力協定 (MAT) を結ぶ必要がある。委員長の所属する首都大・

牧野標本館では、文科省（実際はAMED）から予算を配分されて、国内のABS問題への具体的な支援（協定案の作成支援など）を行うことになった。

6.4. 除名について

伊藤会長より会則第10条にもとづき、4年以上の会費を滞納している11名について除名を行ったことが報告された。

6.5. 植物地理・分類学会の申し入れについて

植物地理・分類学会からの申し入れについて、伊藤会長より説明がなされた。昨年秋頃、植物地理・分類学会から要望があり、学会執行部同士で11月末と2017年3月9日に2回の協議を行った。植物地理・分類学会は会員の減少、事務局の維持が難しくなっており、もし合流する場合、当学会へスムーズに合流してもらえようになりたい。『植物地理・分類研究』は、『北陸の植物』から60年以上の歴史があり、その存続、また、地域の会員へのサービス継続などの要望があり、現在話し合いを行っている。現在、植物地理・分類学会の方でどうするかというアンケートを行っており、5月下旬に植物地理・分類学会の意思決定がなされる予定。私たちはその結論をもって、こちらの対応を考えることになる。詳細は、次号のニュースレターで報告する。こちらの学会として決めるべきことをまずは評議委員会で協議し、それを報告する。検討を重ねた上で来年度の総会で会委員の皆様にお認めいただくよう提案させていただく。植物地理・分類学会は、日本の植物分類学の発展を支えてきた柱の一つなので、完全に他人事ではなく考えていただきたい。

7. 審議事項

7.1. 第一号議案 2016年度事業報告、ならびに2016年度決算報告

前年度の事業報告と決算報告が田中庶務幹事と池田会計幹事よりそれぞれ行われた。五百川監事、西田監事より、会務および会計が適切に行われているとの監査報告を受けた。審議の結果、賛成103票、反対0票で出席者（103人）の3分の2以上をもって承認された。

7.2. 第二号議案 2017年度事業計画、ならびに2017年予算案

田中庶務幹事と池田会計幹事より上記二件について説明があった。審議の結果、賛成110票、反対0票で出席者（110人）の3分の2以上をもって承認された。

7.3. 第三号議案 会費値上げ

伊藤会長より財政基盤の健全化を図るため、2018年度より現在5,000円の一般会員の会費を、7,000円とする会費値上げ案が提案され、審議の結果、附則の記述を「2018年度会費から実施する」と変更した上で、賛成110票、保留1票、反対0票で出席者（111人）の3分の2以上をもって承認された。

7.4. 第四号議案 会則改定および特別会計に関する細則の設定

日本植物分類学会会則に特別会計についての規程がないため、以下の通り会則の一部を改定し、特別会計に関する細則を設ける提案がなされ、審議の結果、第18条3に「一般会計からの積立金等」を追加した後、賛成97票、保留1票、反対0票で出席者（111人）の3分の2以上をもって承認された。

【会則改定】第21条を第24条として第17条から第19条を3条ずつ繰り下げ、第16条の次に次の3条を加える。

第17条 本会の経費は、会費・助成金および寄付金等をもってあてる。

第18条 本会の会計は一般会計と特別会計から構成される。

2 一般会計は会費をもってあてる。

3 特別会計は寄付金、事業収入、一般会計からの積立金等をもってあてる。なお、特別会計については別に細則で定める。

第19条 本会の決算および資産の状況は、毎会計年度終了後に作成し、監事の監査を受け、総会に報告して承認を受けなければならない。

【特別会計に関する細則】特別会計に関する細則を次のように定める。

第1条 会長は、評議員会の議決を経て、特別な事業を遂行するために必要な特別会計を設けることができる。

第2条 特別会計の収支予算および収支決算は、評議員会、総会の議決による承認を得なければならない。

第3条 特別会計をもって行う新たな事業は評議員会の議決を経て、総会の承認を得る。

附則 本細則は、2017年3月11日より実施する。

7.5. 第五号議案 次期監事の推薦

役員等の選出についての細則第6条に基づき、次期監事として瀬戸口浩彰氏（京都大学）、渡邊幹男氏（愛知教育大学）が推薦され、賛成多数をもって承認された。

8. その他

8.1. 第17回大会開催地について

伊藤会長より次回第17回大会について金沢で開催することが告知され、植田邦彦次期大会会長（金沢大学）より挨拶があった。

8.2. 野外研修会について

伊藤会長より、開催地、開催時期ともに未定、決まり次第ニュースレターに掲載予定であることが説明された。

2017年度事業計画および予算

庶務幹事 田中 伸幸

(1) 集会等の開催

・学術集会、講演会、研修会

年次学術集会（日本植物分類学会第16回大会：3月9～12日京都市）を開催する。

2017年度講演会を開催する（日時、場所共に未定）。

2017年度野外研修会を開催する（日時、場所共に未定）。

・総会、評議員会

年次総会を年次学術集会に合わせて開催する（3月11日）。

評議員会を開催する（3月9日）。

(2) 出版物の刊行

・学会誌の発行

英文誌『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』第68巻1～3号（計3冊）を発行する。

和文誌『分類[日本植物分類学会誌]』第17巻1～2号（計2冊）を発行する。

・ニュースレター

『日本植物分類学会ニュースレター』64～67号（計4冊）を発行する。

(3) 委員会活動

以下の委員会を組織し、目的に沿って活動する。

・絶滅危惧植物専門第一委員会

絶滅危惧植物専門第一委員会では、各都道府県の主任調査員・調査員の協力の下に、環境省の第5次レッドリストのための全国調査を実施する。

・絶滅危惧植物専門第二委員会

コケ類、藻類、菌類、地衣類の各グループの委員及び調査協力者により、環境省の第5次絶滅危惧植物の全国調査を実施する。

・植物データベース専門委員会

・学会賞選考委員会

・論文賞選考委員会

・大会発表賞選考委員会

2017 年度予算

一般会計

収入の部	単価	数	予算	前年度予算との差異
会費				
通常（一般）	5,000	725	3,625,000	△ 75,000 注1
通常（学生/海外）	3,000	124	372,000	78,000 注1
団体会員	8,000	19	152,000	△ 32,000 注1
特別会計から移管			1,250,000	1,250,000 注2
APG編集補助費			540,000	540,000 注3
バックナンバー販売			0	△ 100,000 注4
利息			0	△ 1,000 注4
雑収入			0	△ 50,000 注4
合計			5,939,000	1,610,000

支出の部

大会補助費			100,000	0
講演会補助費			70,000	0
出版物印刷費				
APG vol.68(1,2,3)	880,000	3	2,640,000	390,000 注5
分類vol.17(1,2)	650,000	2	1,300,000	0
ニュースレターNo.64-67	50,000	4	200,000	0
英文校閲費			50,000	0
出版物送料				
APG送料	100	3,000	300,000	0
和文誌送料	100	2,000	200,000	0
NL送料	80	4,000	320,000	0
会議費			50,000	△ 30,000 注6
学会賞表彰経費			50,000	△ 10,000 注7
自然史学会連合負担金			20,000	0
分類学会連合分担金			10,000	0
事務局管理費				
消耗品費			50,000	0
交通費			25,000	△ 125,000 注6
アルバイト賃金			0	△ 200,000 注8
封筒等印刷費			200,000	150,000 注9
通信費（小包手数料を含む）			50,000	△ 20,000 注7
手数料・その他			20,000	△ 10,000 注7
自動振替集金代行基本料			3,240	0
自動振替口座確認手数料	130	160	20,800	△ 1,300 注10
レンタルサーバー使用料			26,000	0
国際シンポジウム積立金			0	0
予備費			100,000	0
合計			5,805,040	143,700

単年度収支	133,960
前年度からの繰越金	4,534,815
次年度への繰越金	4,668,775

注1:会員数見直しによる（新入会、名誉会員増、退会・除名・逝去など）

注2:繰越金と併せて1年間の予算執行に必要な資金を特別会計から移管する。

注3:APG編集費のうち、会費収入のみでは不足する資金を特別会計から補填（180,000円/号）。

注4:会費以外の収入を特別会計に変更。

注5:前年の水準に従い修正。

注6:幹事引継会議がないため減額。

注7:前年の水準に従い修正。

注8:事務局管理に関する定期的なアルバイトは設けないため。

注9:新執行部による運営開始に伴い新たな封筒の印刷が必要になるため。

注10:自動振替利用者の更新。

特別会計

収入	予算	前年度予算との差異	
前年度繰越金	2,136,877	△ 950,800	
国際シンポジウム積立金	0	0	注1
命名規約和訳販売	140,000	104,480	注2
バックナンバー販売	60,000	60,000	注3
利息	750	750	注3
雑収入	50,000	50,000	注3
APGカラーチャージ	486,000	486,000	注4
絶滅危惧植物調査委託費	10,000,000		注5
寄付	0	0	
合計	12,873,627	9,750,430	

支出

命名規約和訳出版	500,000	500,000	注6
国際シンポジウム準備金	0	△ 1,200,000	注7
国際シンポジウム若手派遣	0	0	注7
APG編集補助費	540,000		注8
APG編集作業への謝金	51,000		注9
一般会計へ移管	1,250,000		注10
絶滅危惧植物の調査費	9,500,000		注11
絶滅危惧植物の調査に関連する雑費	500,000		注12
次年度への繰越金	532,627	△ 1,390,570	
合計	12,873,627	9,536,750	

注1:2017年度は開催しないため積み立ては行わない。

注2:2016年の実績に基づき100部販売することを想定(2,800円×50%×100部=140,000円)。

注3:一般会計の会費以外の収入を特別会計に変更。前年度の実績に即して更新。

注4:APGのカラー図表に対する課金(18,000円×27個として計算)。

注5:絶滅危惧維管束植物の調査委託(環境省より)。

注6:次回の出版に備えた積立金。

注7:シンポジウムの開催がないため。

注8:APG編集費のうち、会費収入のみでは不足する資金を特別会計から補填(180,000円/号)。

注9:APGの編集作業を補佐する作業に対する謝金(17,000円/号)。

注10:繰越金と併せて1年間の予算を確保するための補填。

注11:絶滅危惧維管束植物の調査費。各都道府県の調査費約20万円および諸雑費を予定。

注12:絶滅危惧植物の調査に関連する振り込み手数料などの事務経費。

(補足) 会費で運営できる予算を明確にするため、本年度は会計の費目を変更しました。一般会計の収入は会費収入を基本とし、これまでは一般会計で扱っていた不定期の収入(「バックナンバー販売」、「利息」、「雑収入」)は特別会計に移動しました。また英文誌(APG)にカラーチャージが導入されたことを受け、特別会計の収入のうちAPGに関連するもの(「APGカラーチャージ」及び「バックナンバー販売」)の一部を、APG編集の補助費として一般会計に移管しています。

(11 ページからの続き)

- ・ABS 問題対応委員会
- ・国際シンポジウム準備委員会
- ・植物分類学の将来の発展と普及に関する委員会
- ・国際命名規約邦訳委員会

(4) 表彰

- ・日本植物分類学会賞(学会賞・奨励賞)の授与を行う。
- ・日本植物分類学会論文賞の授与を行う。
- ・日本植物分類学会大会発表賞の授与を行う。

(5) 国内外の関係学術団体との連携・協力

- ・国内学会連合等への参加・連携を行う：日本学術会議，自然史学会連合，日本分類学会連合など。
- ・The Korean Society of Plant Taxonomists (KSPT)，および Taxonomy and Evolution Division, the Botanical Society of China (BSC) 等と連携する。

(6) その他

- ・学会刊行物のバックナンバー等の販売と整理を行う。
- ・植物分類学関連情報（学術集会，研究動向，出版物，公募）を収集し，ニュースレター，ホームページ等で提供する。
- ・学会刊行物の国内外の研究機関への寄贈と交換を行う。
- ・『植物分類学研究マニュアル』（仮題）の出版計画を進める。

会費の値上げに関する報告とお願い

会長 伊藤 元己

本年3月に京都で開催された日本植物分類学会総会において，来年度からの学会費値上げが承認されました。平成30年度より一般会員が，現行の5,000円から7,000円となる2,000円の値上げです。学生会員は，従来の3,000円のまま据え置きとなります。

昨年度の富山での総会時に角野前会長より説明があったように，学会の一年間の会計収支は赤字となっていて，会計幹事によるシミュレーションの結果，現状の会費ですと数年後に会計破綻となります。また，値上げ幅も1,000円では，破綻までの期間が延びるだけとなります。単なる会費値上げだけでなく，英文誌の必要／不必要での会費別設定など，さまざまな場合を検討しましたが，どれも現実的ではありませんでした。そのため，京都での総会で2,000円の値上げをお願いした次第です。

もちろん，財政の問題は単に会費を上げれば済むものではなく，支出の見直しもしなければなりません。その一環として，従来投稿を奨励するために無料で設定していたAPGのカラーチャージを著者負担として支払っていただくようにしました。また，事務経費等をできるだけ節約をするようお願いしてあります。また，会員に対するサービス向上を図るため，「植物分類学の将来の発展と普及に関する委員会（委員長 角野康郎）」で，植物分類学の現状の調査と課題の検討をいただいています。会費値上げについてのご理解をお願い致します。

日本植物分類学会の英文誌『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』のカラーチャージについて

編集委員長 田村 実

早いもので，私が日本植物分類学会の編集委員長に就いてから丸5年がすぎました。その間，原稿の投稿先に『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』を選んで下さった著者の方々，原稿を完成論文にまで導いて下さった編集委員並びに審査員の方々に深く感謝いたします。おかげさまで，就任当初の原稿不足も概ね解消され，定期発行に何とかこぎつけることができたことと安堵いたしております。

できるだけ多くの方々に『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』へご投稿いただくため，編集委員長に就任する際にそれまで20,000円/ページであったカラーチャージを著者から頂戴しないことに決め，ここまでやってきました。しかし，最近の学会財政は大変厳しく，カラーチャージを再度頂戴せざるを得ない状況になってきました。そこで，2017年7月1日以降にご投稿いただく原稿につきましては，やむなく，18,000円/ページのカラーチャージを著者から頂戴することといたしました。『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』に原稿をご投稿下さる方々には，何卒ご理解賜りますよう，どうぞよろしく願います。

2017年3月9日の編集委員会において、『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』の国際化をさらに強力に推進する体制を発足させ、現在、活動を続けております。今後とも、原稿の投稿先として『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』を選んでいただければ大変有難く存じます。なお、和文誌『分類』につきましては、当面、これまでと同様にカラーチャージを著者から頂戴せずに出版していく方針です。

ABS 問題対応委員会からの報告

ABS 問題対応委員長 村上 哲明

今年の1月30日にメーリングリストを通じて会員の皆様にお知らせしましたように、「遺伝資源の取得の機会及びその利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分 (ABS)」に関する日本の国内措置、すなわち外国の ABS 法が日本国内で遵守されていることの監視方法などについて、省庁間の交渉がようやくまとまり、指針案として公開されました。さらに、この指針案は閣議決定され、平成 29 年 4 月 7 日の時点で、衆議院の外務委員会においても、名古屋議定書の締結は承認すべきものとされたとの報道がありました。近々、締結されるはずで。

さて、この指針案を見ると、日本国内の監視は我々が要望していたように「とても緩やかなもの（違反者への罰則は設けない）」になっています。さらに、国内のチェックポイント（国内の監視を行う政府機関＝日本の場合は環境省）に我々研究者が報告を求められるのも、1点1点の標本情報など煩雑すぎて対応しようがないものではなくて、国内に持ち込んで実際に利用した遺伝資源の概要を報告するだけで良いことになっています。我々が十分実行できる範囲のもので。そこで、我々としては、ABS に関して生物多様性条約で求められていることを積極的に遵守して、そのことを内外に示していきたいと考えています。そのことが、我々の望んだ状況が今後も長く続くことにつながると考えるからです。

そのためには、まず、我々が海外調査を行う外国の機関と調査研究協力協定 (MAT) を結ぶ必要があります。委員長の所属する首都大・牧野標本館では、文科省から ABS 支援のための予算を配分されて（実際は AMED から支援されているナショナルバイオリソースプロジェクトの分担者として）、国内の分類学・生態学分野の研究者向けの具体的な ABS 支援（例えば、海外の研究機関との協定案の作成支援など）を行うことになりました。この予算で特任助教の山崎健史君（ベトナムや台湾でクモの分類学的研究を行ってきた）を雇用して、首都大学東京・牧野標本館 ABS 支援チームが立ち上がっています。今後、本学会の ABS 問題対応委員会とも情報交換を密にして、日本植物分類学会の会員が今後も外国産の植物サンプルを利用して大きな研究成果をあげ続けていけるように支援を行う予定です。

特に東南アジアや太平洋地域の国々で野生生物の調査を行いたいけれども、調査対象国のカウンターにいる機関と自分の所属機関との間でどのような文面の協定を結べば良いかがよくわからない、あるいは具体的にどのようにすれば問題ないのか不安であると感じられている会員の方は、遠慮なく我々、牧野標本館 ABS 支援チームに相談してください。相談窓口のメールアドレスは、mak-abs@tmu.ac.jp です。

植物地理・分類学会からの申し入れ

会長 伊藤 元己

昨年秋に、植物地理・分類学会執行部より角野前会長に植物地理・分類学会から相談がありました。その内容は、植物地理・分類学会が会員数の減少などにより、従来のままの活動の維持が難しくなっていて、他学会、特に本学会への合流を模索しているということでした。当学会とは別組織の問題ですが、日本の植物分類学の普及と発展を支えてきた学会のことであり、日本の植物分類学の将来を考えると無関心ではられません。そのため、昨年 11 月 30 日に京都において両学会の執行部での懇談会を開催し、植物地理・分類学会の現状の説明と、合流に至った時の日本植物分類学会への希望事項について意見

を交換しました。

今年になり、日本植物分類学会が新体制になってからも、私が前会長からこの件についての検討を引き継ぎ、3月9日に2回目の合同懇談会を行いました。ここでは、まだ植物地理・分類学会の方針が決定されたわけではないので、仮定の話で不確定な事が多いのですが、問題点を整理しました。その中で2つほど、当学会での検討が必要なことが出てきています。1つは、合流時に植物地理・分類学会のみに所属している会員を、できるだけ円滑に日本植物分類学会会員へと移行させる方策を考えてほしいという要望がありました。当学会にとっても会員増は会計上・活動上のメリットがあります。もう1件は、植物地理・分類学会で発行している『植物地理・分類研究』（旧『北陸の植物』）の扱いです。この雑誌は1952年より発刊し今年が64巻となっています。こちらも当学会の雑誌ではありませんが、日本の植物分類学の一翼を支えてきた歴史のある雑誌です。植物地理・分類学会からは、『植物地理・分類研究』の雑誌名の存続ができないかという相談がありました。

本件は、日本の植物分類学の発展を考えると、当学会も可能な限り対処しないといけない問題だと思っています。もし、植物分類・地理学会が本学会に合流する意思を正式に決定しましたら、すぐにでも評議委員会での具体的な検討に入りたいと思います。この件についての質問やご意見がありましたら、日本植物分類学会事務局へお寄せください。

庶務報告（2017年2月～5月）

庶務幹事 田中 伸幸

(1) 日本学術会議協力学術研究団体実態調査に対する協力

日本学術会議協力学術研究団体実態調査に対して2月22日付で回答を行いました。これまで学会名鑑の当学会欄は【設立趣旨】に沿革が記載されていたため、今回、その点も修正を行いました。

(2) 九州大学所蔵の博物館資料の保全と継承に関する要望書への賛同

標記の件について、自然史学会連合では九州大学キャンパス移転に伴い総合研究博物館の移転も予定されていますが、博物館資料の収蔵スペースの計画が未定のように、このままだと貴重な自然史標本をはじめとする博物館資料の散逸や最悪の場合には破棄の可能性が懸念されます。そこで、自然史学会連合として九州大学総長宛の要望書を提出することに本学会としても賛同しました。

(3) 自然史学会連合監修『理科好きな子に育つ ふしぎのお話 365』の電子化に伴うNTTへのコンテンツ提供について

自然史学会連合監修『理科好きな子に育つふしぎのお話 365』（誠文堂新光、2015年）の出版社より電子化書籍発売の提案があり、それに先立って、NTTドコモから提案されているコンテンツ提供（以下企画書を参照）に関して、本学会として賛成しました。

1. 企画書「NTTドコモ スゴ得サービスへ」のコンテンツ提供について

このたび、NTTドコモの新サービス「1日1話 366 for スゴ得」アプリへのコンテンツ提供を提案したく存じます。以下に詳細をまとめました。ご検討をよろしくお願い致します。

●サービス名

180のアプリ・サービスが使い放題の定額サービス※「スゴ得」（月額380円）内
新サービス「1日1話 366 for スゴ得」アプリ

※作品が読まれた回数に応じて、参加180のサービスで収益を分配する仕組み

●サービス概要

NTTドコモと株式会社絵本ナビが共同で制作・運営する電子書籍配信サービス
・スマホやタブレットで読みやすい形式で毎日1話ずつ配信

- ・基本は1日1話限定配信だが、2日以上連続して読みに来ると、お話をさかのぼって「ゲット」できる（※ダウンロードではない。振り返って読めるだけ）
- ・配信するお話は同時に朗読音声ファイルとしても配信（制作は（株）絵本ナビ）
- 提供するコンテンツ
 - 『理科好きな子に育つふしぎなお話 365』内 1/1 ~ 12/31 までのお話 366 本
- 提供のメリット
 - ・出典が明記されるので販促効果が高い
 - ・1日1話限定配信なので、全ページを一気に読まれるリスクがない
- スタート予定
 - NTT ドコモ側は遅くとも 2017 年 6 月 6 日開始を希望しているため、本書の 6 月 6 日のページから、以降順番に配信される予定。

(4) その他

NHK 出版『趣味の園芸』などからの学名についての学会宛の問い合わせ 3 件に対応しました。

お知らせ

2017 年度日本植物分類学会野外研修会のお知らせ

山脇 和也（近畿植物同好会）・福田 知子（三重大学教養教育機構）

「三重県菅島の植物」

菅島はニッケル、マグネシウムなどを多く含む蛇紋岩地として知られています。大山では植物が矮小化した蛇紋岩地特有の景観がみられます。シマジタムラソウ、ヤマジソなどの希少な植物や、ジングウツツジ（実）、ヒロハドウダンツツジ（実）、イブキジャコウソウ、ヒロハスズサイコ（実）などがみられると期待されます。海岸にもハマボス、イワタイゲキなど多くの植物がみられます。コメガヤ、ヤリテンツキ、トラノハナヒゲ、ミスミソウもあります。菅島は国立公園内ですが、大部分が普通地域ですので、一部の特別地域を除いて、レッドデータブック掲載種以外の植物は採集可能です。

日程：2017 年 9 月 15 日（金）～9 月 17 日（日）

第 1 日目（15 日）昼ごろ、鳥羽マリンターミナルに集合、市営定期船かチャーター船で菅島へ（乗船時間約 15 分）、別館松村に到着、散策。夕方に研修会、懇談会。旅館泊。

第 2 日目（16 日）朝食後、徒歩で出発。海岸の散策も含め、島をほぼ一周し、島の中央部の大山（おやま・標高 237m）へも登山。夕方、研修成果の交換会。旅館泊。

第 3 日目（17 日）朝食後、鳥羽へ戻った後、答志島へ渡り 4 時間ほど散策。

申込方法：メール、ファックス、ハガキで以下にお申し込みください。氏名・住所、電話番号、あればメールアドレスの明記をお願いいたします。

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

三重大学教養教育機構 福田 知子 宛

Tel: 059-231-9833

Fax: 059-231-9353（共通機器のため、「福田 知子宛」とご明記ください）。

E-mail: fukuda@ars.mie-u.ac.jp

メールでいただいた方にはメールで、ファックス・ハガキでお申し込みの方には電話でお返事いたします。2-3 日中に返事がない場合はお手数ですがお問い合わせをお願いいたします。

定員：30～40名程度（申込順）

参加費用：旅館泊2日で20,000円（夕食・朝食込）。定期船代（鳥羽－菅島）片道500円，おにぎり代1回分500円。計23,000円程度。チャーター便を使う場合は，20人以上だと定期船代と変わらないか安くなります。初日に集金させていただきます。

申込期限：7月末（定員に余裕がある場合，追加募集します）

時間などの詳細は追ってご連絡いたします。

2018年度日本植物分類学会第17回大会（金沢）のお知らせ

第17回大会会長 植田 邦彦

日本植物分類学会第17回大会を，下記の通り開催いたします。大会および参加申込の詳細は，大会ホームページおよび第66，67号のニュースレターでお知らせいたします。多数のご参加をお待ちいたします。

【会場】 金沢歌劇座（金沢市下本多町6-27，<http://www.kagekiza.gr.jp/>）
金沢大学自然科学研究科講義棟（委員会・評議委員会）

【日程】 2018年 3月7日（水）：各種委員会，評議委員会（金沢大学）
3月8日（木）：研究発表
3月9日（金）：研究発表，総会，受賞講演，懇親会など
3月10日（土）：研究発表，公開講演会

【ホームページ】 現在作成中，アクセス可能になり次第，分類学会ホームページ等にて連絡いたします。

【問い合わせ先】 日本植物分類学会第17回大会（金沢大会）準備委員会
事務局長 小藤 累美子
〒920-1192 石川県金沢市角間町
金沢大学理工研究域自然システム学系内
TEL & Fax: 076-264-6208; E-mail: kofuji@staff.kanazawa-u.ac.jp

2016年に到着した交換図書一覧

図書幹事 高野 温子

Aliso 33(1), 33(2), 34(1-1)

Allertonia 14

Annals of the Missouri Botanical Garden 101(2), 101(3)

Bauhinia 26

Blumea 60(1-3), 61(1), 61(2)

Blyttia 73, 74(2), 74(3)

Boissiera 68, 69, 70

Bulletin mensuel de la Société Linnéenne de Lyon 85(1), 85(3-4)

Bulletin mensuel de la Société d'Historie Naturelle de Toulouse 151

Bulletin of the Hunt Institute for Botanical Documentation 28(1), 28(2)

Bulletin of the National Museum of Nature and Science 41(4)

Bulletin of the Osaka Museum of Natural History 69

Candollea 70(2), 71(1)
Conservatoire et Jardin botaniques de la ville de Geneve: rapport annuel 2006-2007
Cryptogamic Botany reprints 5 (159-162pp)
Cryptogamie 37(2)
Diatom 31
Englera 33(1-2)
Flora Kanagawa 81, 82
Fritschiana 79, 80, 81, 82
Gardenwise 45, 46, 47
Genes & Genetic systems 91(3)
岐阜県植物研究会誌 30
Hoppea 76
Journal of Japanese Botany 91(1), 91(2), 91(3), 91(4), 91(5), 91(6), 91supplement
Journal of Plant Biology 59(4), 59(5)
Journal of Plant Research 129(1), 129(2), 129(3), 129(4), 129(5), 129(6)
Journal of Systematics and Evolution 53(1), 53(2), 53(3), 53(4), 53(5), 53(6) (次号より電子出版に移行)
Journal of tropical and subtropical botany 23(6), 24(1), 24(2), 24(3), 24(4), 24(5), 24(6)
鹿児島大学農学部演習林研究報告 42 号
神奈川県立博物館研究報告 自然科学 45 号
神奈川県自然誌資料 37 巻
Kew Bulletin 70(4), 71(1), 71(2), 71(3)
Korean Journal of Plant Taxonomy 45(4), 46(1), 46(2), 46(3)
京都植物 32(1)
Memoirs of the National Museum of Nature and Science 51
長岡市科学博物館研究報告 51
奈良植物研究 35
Novon 24(3), 24(4)
岡山大学資源植物科学研究所報告 23
大阪市立自然史博物館所蔵 47 甲虫類目録 (4)
Phyton 53(23-72, 185-320)
Plant Diversity and Resources 37(6), 38(1), 38(2), 38(3), 38(4)
Plant Ecology & Diversity 8(5-6), 9(1), 9(2), 9(3)
Reinwardtia 14(2), 15(1)
Revue Valdôtaine D'histoire Naturelle 69
蘚苔類研究 11(2), 11(3),
自然史研究 16(3)
Stapfia 76
Systematics and Biodiversity 13(4-6), 14(1-3)
Thai Forest Bulletin (Botany) 43
Thaiszia 25(1), 25(2)
The bulletin of the National Tropical Botanical Garden 32(4)
The gardens' bulletin Singapore 67(2), 68(1)
東北植物研究 18
徳島県立博物館研究報告 26
Webbia 70(2), 71(1), 71(2)
Willdenowia 45(3), 46(2)

